

第8回カンボジア歯科医療支援活動のご報告およびご支援へのお礼

広島大学歯学部国際歯科医学連携開発センター

国際活動企画運営部 岩本 優子

教授 高田 隆

2015年2月25日より3月6日にわたって、カンボジアを訪れ、第8回カンボジア歯科医療支援活動を実施して参りました。今回は、シェムリアップ州での活動に加え、首都プノンペンでも初めて歯科健診や口腔保健指導等を実施することができました。広島中央ロータリークラブ様からも引き続きご支援をいただき、以下のような活動を実施して参りましたのでご報告いたします。

活動日程と内容

2015年		活動場所	活動内容
2月25日	水		必要物品買い出し・物品準備等
2月26日	木		各活動先訪問・打ち合わせ 家庭訪問・就労支援活動視察
2月27日	金	シェムリアップ州 教員養成校・附属小学校	児童の歯科健診、口腔内写真撮影 教員研修会を開催し模擬授業実施
2月28日	土	教員養成校附属小学校	児童の歯科健診、口腔内写真撮影
3月1日	日		各自アンコール遺跡群等視察
3月2日	月	ササースダム中核小学校	児童の歯科健診、口腔内写真撮影、 治療、口腔衛生指導
		アンコール小児病院	ビジターセンターにてカンボジアの医療の現状について 学習
		懇親会	カンボジア国立健康科学大学学生と共に懇親会開催
3月3日	火	ワット・ボー小学校	児童の歯科健診、口腔衛生指導、口腔内写真撮影
3月4日	水	ワット・ボー小学校	児童の歯科健診、口腔衛生指導、口腔内写真撮影
3月5日	木	プノンペン	保健省・国立健康科学大学・プティサストラ大学訪問
3月6日	金	プノンペン「ひろしまハウス」	児童生徒の歯科健診、口腔保健指導

参加者

◇広島大学教職員

歯科医師 7名、歯科研修医 4名、歯科衛生士 2名

◇広島大学大学院生

歯科医師 1名、医師 1名

◇広島大学歯学部学生

歯学科 8名（うちカンボジアからの留学生 3名）、口腔健康科学科 11名

◇開業医等

医師 1名、歯科医師 1名、その他 4名

◇カンボジア国立健康科学大学

歯科医師 2名、卒業生（歯科医師） 2名、学生 4名

◇カンボジア保健省等

歯科医師 4名、

計 52名

活動風景

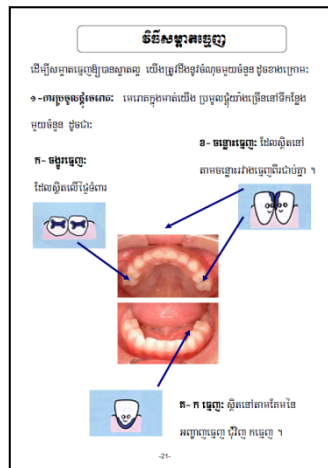


シェムリアップ州
教員養成校・附属小学校

←附属小学校での歯科健診を
初めて実施

↓模擬授業は好評のため
昨年より規模を増して実施





↑ 教材として用いている現地語の冊子
 広島中央ロータリークラブの御支援により
 印刷したもの
 裏表紙にはロータリーのロゴ入り→



↑ ワット・ポー小学校受付業務
 カンボジアから広島大学への留学生も参加し、クメール語の記入などをサポート



↑ ワット・ポー小学校
 カンボジア保健省歯科医師による健診
 広島に研修招聘した技官と協力して実施



↑ ササースダム小学校における歯科治療（充填・抜歯）
 治療行為も実施しているため、より高い滅菌レベルが求められている状態であった



↑ プノンペン「ひろしまハウス」
ひろしまカンボジア市民交流会等の皆様によ
ってプノンペンの寺院内に建てられ、学校に通
えない子どもたちのサポート事業が展開され
ている
今回はじめて歯科健診や口腔保健指導を実施

今年度の御支援により購入できた備品

今年度も中央ロータリークラブ様から、資金的な御支援をいただき、以下のような備品を購入させ
ていただくことができました。今後の活動に活用していきたいと考えております。



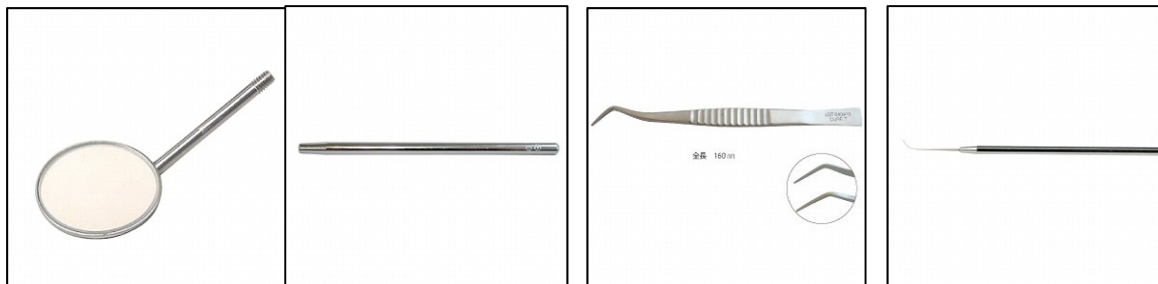
← 簡易型オートクレーブ（滅菌機器）

1台

我々が日本で通常用いるオートクレーブは電源が必要であり、電気の通っていない現場では使用できません。現地での活動用として、携帯用のガスボンベで動作可能な簡易型オートクレーブをプノンペンにて購入いたしました。

これにより、小学校等の現場での器具の滅菌が可能となります。器具を安全に繰り返し使用できるため、長期的にはコストダウンを図りながら、より安心安全な治療行為が可能で
す。また、現地での購入をお許しいただき、輸送にかかる費用を大幅に削減することができました。

また、以下のような滅菌可能な歯科器具を併せて購入いたしました。



デンタルミラー（ミラートップ・軸）
264 本

デンタルピンセット
40 本

探針
100 本

今後の活動と引き続きの御支援のお願い

この度は、中央ロータリークラブ様からのご支援をいただいたことで、上記のような活動の実施、ならびに備品の購入をすることができました。毎年、継続したご支援をいただき、大変感謝しております。ありがとうございました。

カンボジア歯科医療支援活動も 8 回を数えました。日本とカンボジア双方の関係者を少しずつ巻き込みながら、継続的なプログラムを実施できていることに手ごたえを感じ始めております。

ワット・ポー小学校において行った口腔内診査の結果を平成 23 年から平成 27 年にかけて集計したところ、齲蝕数・齲蝕率が減少、治療済み歯の増加が、継続してみられております。田中千草先生のお力も借りながら、カンボジア人の先生方による週に 1 度のはみがきタイムが定着し、この小学校の先生が、他の小学校へはみがき指導に赴くまでに広がりつつあります。私たちの目指す「カンボジアの方々の手で広げていける歯科支援活動」が、具体的に実を結びつつあると実感しております。



昨年度から始めた教員養成校での取り組みも大変好評であり、今後は教育省等とも協力体制を築き、小学校教員養成校や小学校のカリキュラムへの導入を目指していくことで、



広くカンボジア全体に広げていくことを目標としております。

支援活動の中で実施してきた治療については、少しずつカンボジア人歯科医師や歯科学士の協力が得られるようになってきました。今回初めてプノンペンで実施した活動にも、カンボジアから広島大学へ留学している学生 4 名の参加が得られました。中央ロータリークラブ様からの御支援で購入したオートクレーブ等を用いて、現場での具体的な運営方法について、実践の中で彼らに伝えていき、将来的には活動主体をバトンタッチして、農村部でまだまだ需要のある齲蝕治療についても充実させていきたいと計画しております。治療や健診用の器具については、これからも少しずつ揃えていく必要がございます。

また、これまで、移動式の歯科用ユニットなどの機材は、日本と現地の運搬上の問題、また金銭的な問題から導入できておらず、手用切削器具のみを用いた限定的な治療しか行っておりません。カンボジアの歯科大学や歯科医師との協力体制が少しずつ整った現在、これらをカンボジアにおいて購入、整備することが可能であると分かって参りましたため、治療の幅を広げるためにも、これらの導入ができたらと思っております。

現在のところ、活動費は各方面からの寄付や助成金等で賄い、渡航費や滞在費についてはそれぞれが捻出している状況であり、機材等購入の余裕がございません。

広島中央ロータリークラブの皆様には、これまでも継続的にご支援をいただいております中恐縮ではありますが、これらの計画につきまして、ぜひ引き続きご支援を賜れましたら幸いに存じます。また、今後も機会がございましたら、カンボジアにおける歯科医療支援をご視察いただき、私どもの活動にご理解をいただければと存じます。何卒よろしくお願いいたします。